

がねを以て、百萬兩にすることは、辛勞するに足らざるなり。さて承り侍り度ことあり、當時主家の御身帶、いかほどの御儲にて侍るにかと問へば、主人こたへて、わが身帶には、いかほど、いふかぎりもあらざるなりといへば、さほどのたくはへおはしても、その上にも猶こがねをほしと思し召しさむらふにやといへば、猶ほしとおもふこと、いまだ飽くことを志らずといふに、亦右衛門また申けるは、さあらば此こがねを倍することをば、是を限りとして給はれかし、我等は命こそ寶なれ、命ありてのうへの財なり、命なくでは財ありても、益なしと申すに、○中略 十萬兩を主人にそのまゝ奉りけふまでのことは、奉公の身なれば、仰にそむきがたし、今より我身には願の侍れば、暇給はりて、そのうへのことはゆるし給へかしとて、いとまを乞ひて、わが家にかへり、若干のこがねを、縁ある輩に配り分ち、身帶を玄まひ、頭をそり、圓智坊と改名して、大融寺の徒弟となり、京へいで、菴室をかまへ、日々に托鉢して、洛に終れり、そのゆかりの者、大融寺に塚を建てたり、石に刻める辭世の歌に、

落ちて行くならくの底を覗きみんいかほど欲のふかき穴ぞと

〔肥後物語〕賄賂追從ノ路塞リタル物語ノ事

城下豊饒ノ町人堀平太左衛門方ニ、○中略 看ヲ一折持セタリケルガ、平太左衛門イカサマ存付シコト有シャ、右ノ町人ヲ玄關ニ通シ、次ノ間ヨリ對面シ、其方ハ拙者ニ何ゾ頼ミ度コトアリヤ、分ニ過タル肴ヲ遣ハシタリ、サテ、○中略 愚ナルモノカナ、理筋アル事ナラバ、イカナル下賤ノ者ナリトモ、理ノ通リニ捌クマジキヤ、○中略 大ニ叱リ這入りケレバ、町人○中略 看ヲ持セ、空ク歸リケル、暫クアリテ、町役人右ノ町人ノ宅ニ來リテ、其方堀大夫ニ賄シタル由、右ノ咎ニヨリ、五日ノ間、見世ヲ下スベキ旨、被仰出タリト、表裏ノ門戸ヲ閉引取タリ、ケ様ノコトナドハ、間々承リ及ビシガ、急度賄賂相止タルコトハ聞及申サズト物語セリ、